

# 21 『岡部宿』

中世の頃、源頼朝が新駅として設置した宿駅

宇津谷峠を越えて岡部川を渡り岡部宿に入る。



工事中だった岡部宿の大旅籠柏屋歴史資料館。平成10年2月の撮影。完成は平成12年11月。



宿の出口に近い所の古い街並。



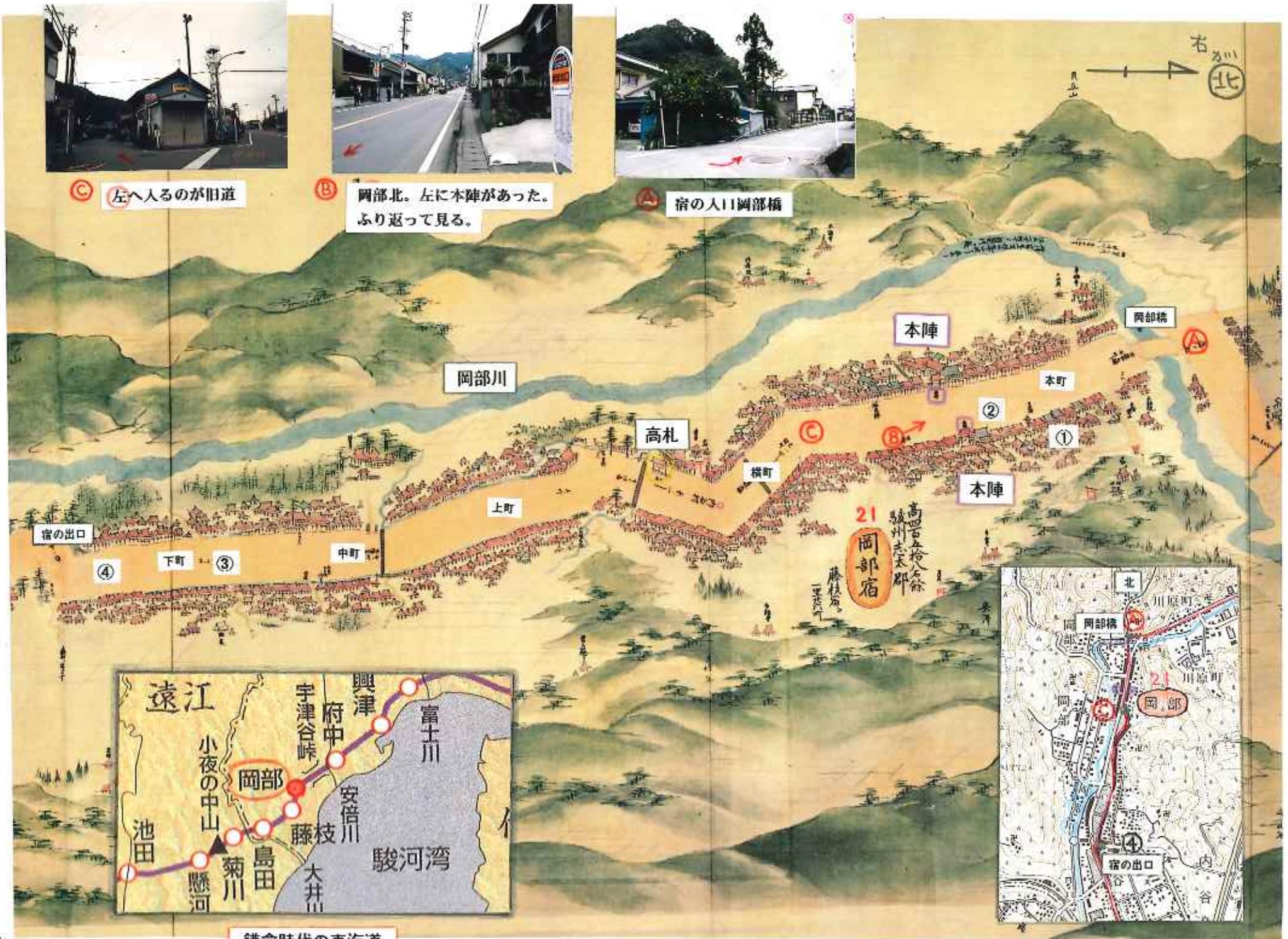
**本陣 2軒**  
脇本陣 2軒

左が岡部本陣内野家。右側に本陣仁藤家があったが今は無い。この先を左に入る。



宿の出口で右に曲がるとすぐ左に曲がる樹形になっている。

宿内人口	2322人
総家数	487軒
旅籠	27軒
大小	3軒 7軒 17軒





薺梨川の八幡橋を渡る。



朝比奈川に架かる横内橋を渡る。



岡部宿を出て藤枝市横内に入る。昔の横内村。



田中藩の領地を示す傍示杭。



田中城への御成道と東海道の分岐点

八幡橋を渡ると道が左右に分かれている。左は田中城へ行く御成道で家康はこの道を通った。右の道が藤枝宿へゆく東海道。



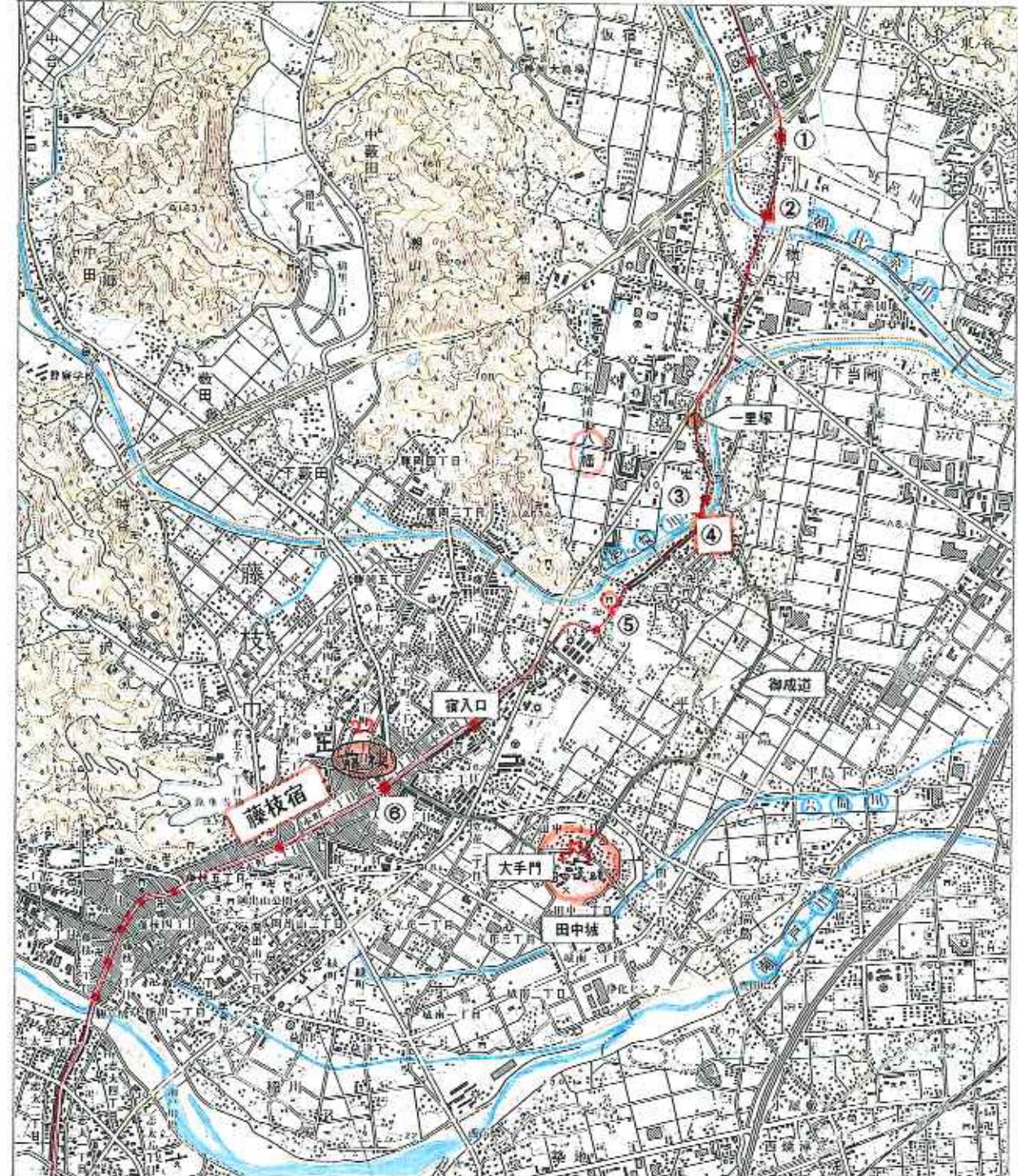
日本橋から48番目(192km)の一里塙で、国道だと197kmとなる。ほど合っている。



藤枝市水守。昔の水守村の立場があつた所で右側に神社がある。



藤枝宿に入り、左が田中城の大手門へ行く道。



# 22 『藤枝宿』

静岡県藤枝市

鎌倉時代からの宿駅

田中城の城下町



本陣 2軒

脇本陣 0軒

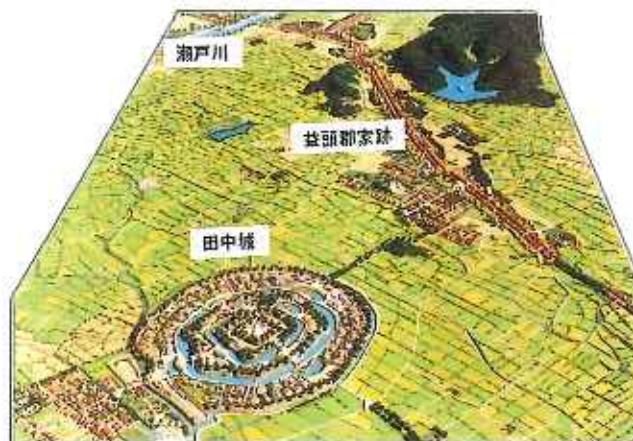
宿の中心地の上伝馬町。この先の右側に下の本陣村松家と上の本陣青島家があったが、今は何も残っていない。  
今の藤枝2丁目。



右の角に高札があった。この右側の道が昔の鎌倉時代の東海道で瀬戸谷街道という。



JR 藤枝駅



田中城 元は一色氏の城で、戦国時代今川から武田・徳川と城主が代わった。駿府城の内の守りの城で直径 600m の円形をしていた。今は西益津小学校が本丸の跡に建っている。



藤枝の商店街

宿内人口

4425人

総家数

1061軒

旅籠 37軒

大 5軒  
中 11軒  
小 21軒

鎌倉時代のもう1つの東海道のルートで、島田宿へ行く街道。



① 上伝馬町の商店街



藤枝宿内図



長樂寺町の「池田屋旅館」



江戸時代に石野家が売っていた強飯でくちなしの花を擦っておにぎりにしたもの。今の藤枝市下青島。



名物の染飯 黄色のおむすび



瀬戸川を渡ると松並木が少し残っている。藤枝市志田2丁目の辺。



藤枝宿の昔の西の木戸を出るとすぐ瀬戸川を渡る。  
江戸時代には橋は架かっていなかった。



瀬戸川を渡りしばらくすると国道と交わる五差路の交差点に出る。1号線は右と左、左斜めにゆくとJR藤沢駅に出る。



島田市阿知ヶ谷



上青島のバス停付近の松並木。500m  
程が残っている。昔の上青島村。



島田市道悅1丁目。昔の道悅島村。



東光寺谷川の瀬戸橋を渡る。



上青島の一里塚跡 江戸から51里(204km)  
の一里塚。松並木が続く。62本あると書いてある。

# 23 《島田宿》

大井川の川止めで賑わった宿  
大井川の川止めで賑わった宿  
大井川の川止めで賑わった宿

大井川を渡った。  
元島田を通り  
JR島田駅。明治22年の開業。



**本陣 3軒**

この先の右側に、下の本陣置塩家、中の本陣大久保家、上の本陣村松家の3軒が並んであったが場所が特定出来ない。  
今の本通り3・4丁目。



河原町1丁目にある島田市博物館。



代官所の陣屋跡で稲荷の祠がある。



本通り(6丁目)この先の左側にジャスコがある。

**宿内人口**

6727人

**総家数**

1461軒

**旅籠**  
48軒

大6軒  
中7軒  
小35軒

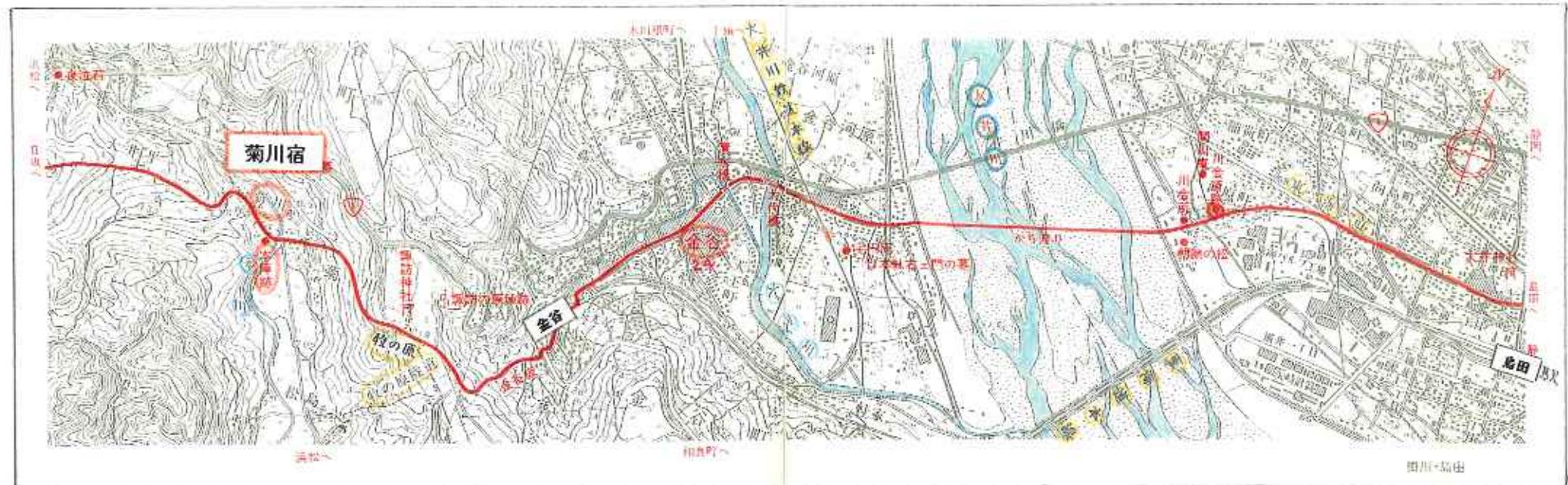


仁寿3  
854の創建

元禄2  
1689

現在地に移る。





◎ 菊川宿：建久元年(1190)10月13日  
物語りが上洛の際に宿泊して宿。

### 昭和45年に復元された大井川の川越の家並み

『今昔東海道独案内』



川に近い所の家並み。遠くに河原が開けている。



川会所 元禄9年（1696）に出来た川渡しの管理事務所。全ての通行の運営を行っていた。



川越の人足の数は350人と定められていて1番から10番までの組に分けられ、川の水量によって人足の数を決めていた。



大井川を渡ると遠くに牧之原台地が見える。こちら側には川越の家並みは復元されていない。金谷の宿はまだ先。ここは金谷町東町。



100 消水橋を渡り町の中心部に入る。



関取の一行為大井川を渡る様子。



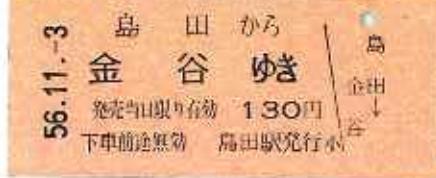
『東海道名所圖会』の大井川の渡し



大井川の国道の鉄橋 昭和3年の開通で長さ1014mある。東海道線の鉄橋は、明治22年に完成しこれによって東海道線の全線が開通した。

# 24 《金谷宿》

大井川を越え「お茶」の牧之原台地へ入る入口の宿



JR 金谷駅。SLが走る大井川鉄道の始発駅。



本陣 3軒

脇本陣 1軒

3軒あった本陣の中で唯一残っている  
本陣の佐塚家で今は書店になっている。  
右隣りが山田家、左の手前に柏屋本陣  
があったが今は無い。



右のガードをくぐり、牧之原台地を通って日坂宿へむかう。手前右側が金谷駅。



宿の中心地本町。



本陣の向かい側の街並み。金谷駅はこの先の宿のはずれにある。

宿内人口

4271人

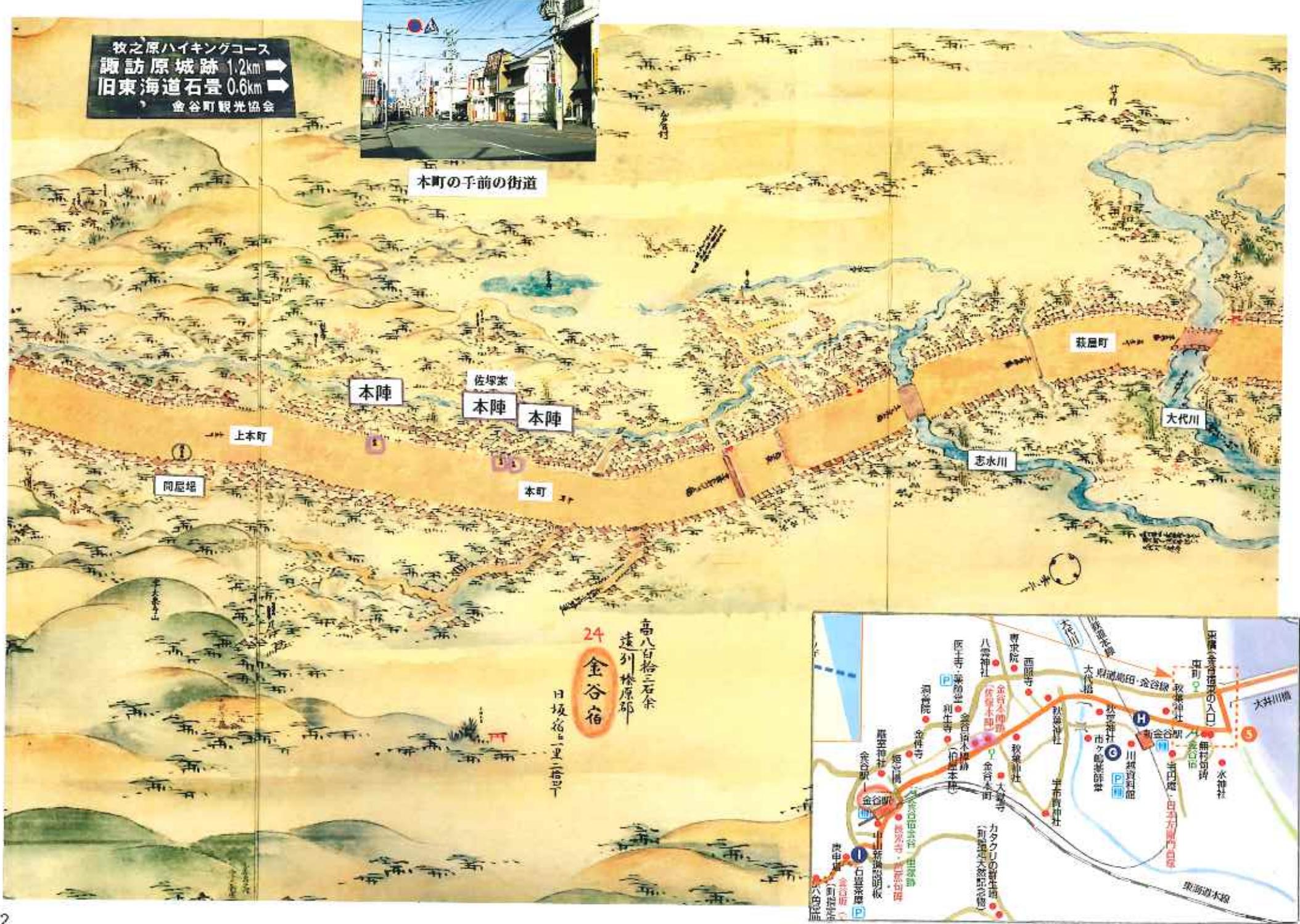
総家数

1004軒

旅籠

51軒

大 中 小  
15軒 16軒 20軒



十三日甲午。於遠江國菊河宿、佐々木三郎盛綱相副小刀於魁楚割。居折以子息小童送進御宿。申云。



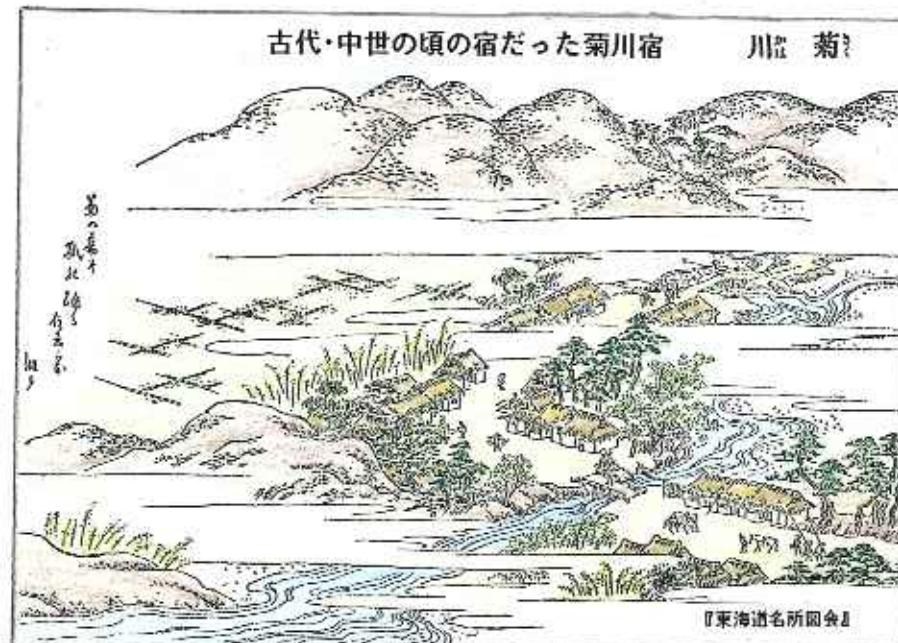
牧の原台地の茶畠 日本で最大の茶園で、明治2年静岡藩の当時失業した旧幕府の士族達280人程が始めた茶畠。



金谷宿を出て上りの山道に入る。不動橋を渡る。



菊坂を下ると菊川集落に入る。  
金谷町菊川。



古くからある宿で、建久元年（1190）10月13日  
頼朝が上洛する際ここに宿泊し、鮭を乾したものを作  
れて大喜び歌まで詠んだと『吾妻鏡』にある。



金谷坂の石疊 文政年間（1818～1830）に出来た山越の難所だった所。430m程が残っている。



向山權現の祠の前を過ぎる。



日坂宿への下り坂が続く。



佐夜の中山の子育飴を売る扇屋 山越えの茶屋で4  
～5軒あったが今はここだけが残っている。「夜泣石」  
の民話にちなんだ飴をおばあさんが売っている。



おなかいたい時は少し、どうかで温めてから召して下さい

# 25 ≪日坂宿≫

江戸初期に開かれた山越えの宿だが古代・中世の道が同じルートをとり頼朝の上洛の際もこの道を歩いた。



**本陣 1軒**  
脇本陣 1軒

本陣の片岡家のあった所。今は日坂幼稚園になっている。



宿は全体に下り坂になっていて、ここははずれに近い。右側に高札があり古宮橋を渡る。



小夜の中山の坂を下って日坂宿に入る。右の標識の裏側が本陣。

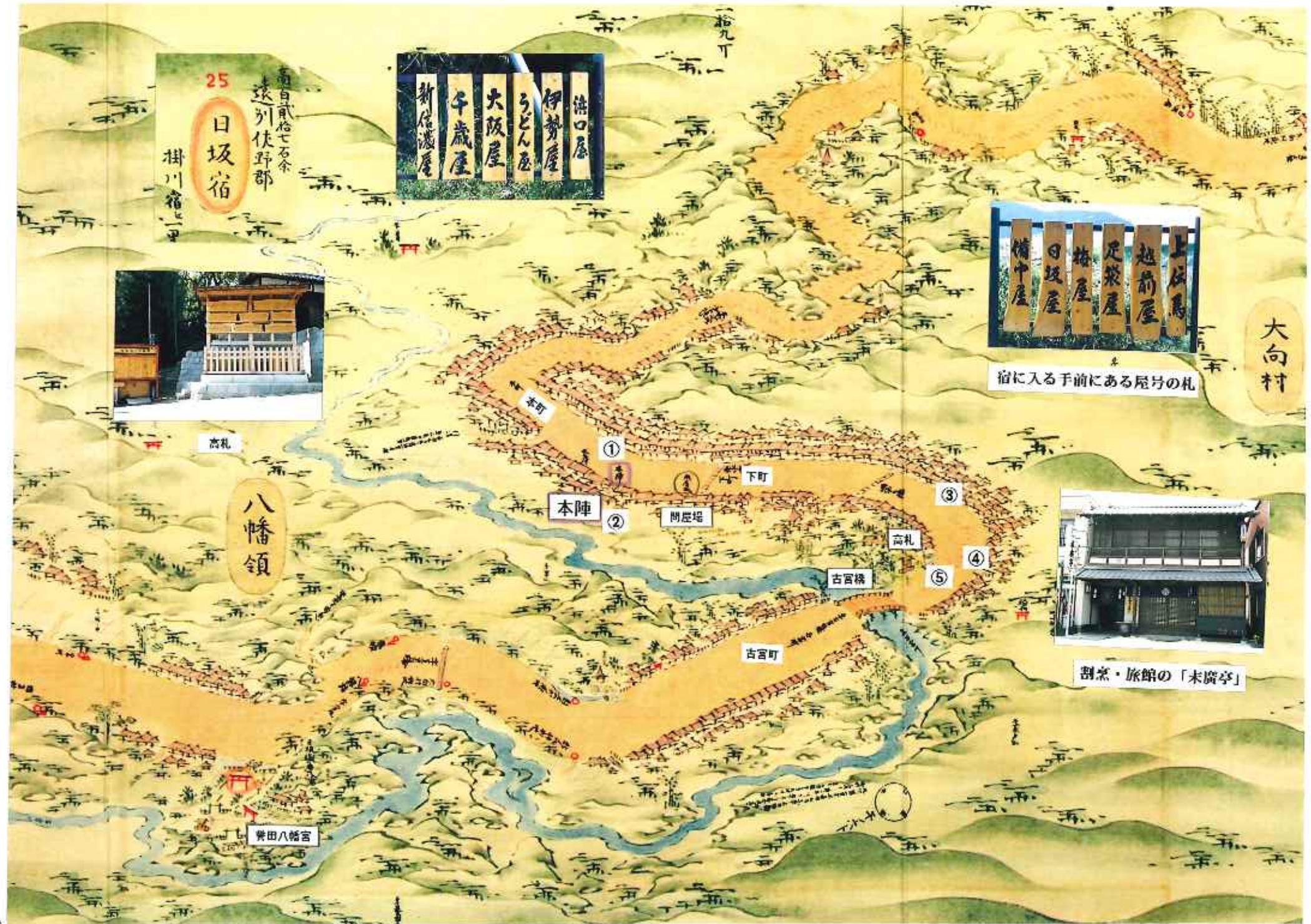


**川坂屋** 日坂宿でここだけ江戸時代の匂囲気を残している唯一の建物で、当時は旅籠だった家。



**萬屋** 屋号の看板が各家に付けられている。

宿内人口	750 人
総家数	168 軒
旅籠	33 軒
大中小	3 軒 22 軒 8 軒





伊達方の一里塚 江戸から57番目（  
228 km）の一里塚で、1号線の標  
識の距離とほど合っている。



日本橋から224 km



ここで日坂宿を出る。



国道1号線と分かれ、左へ入るのが旧  
道。



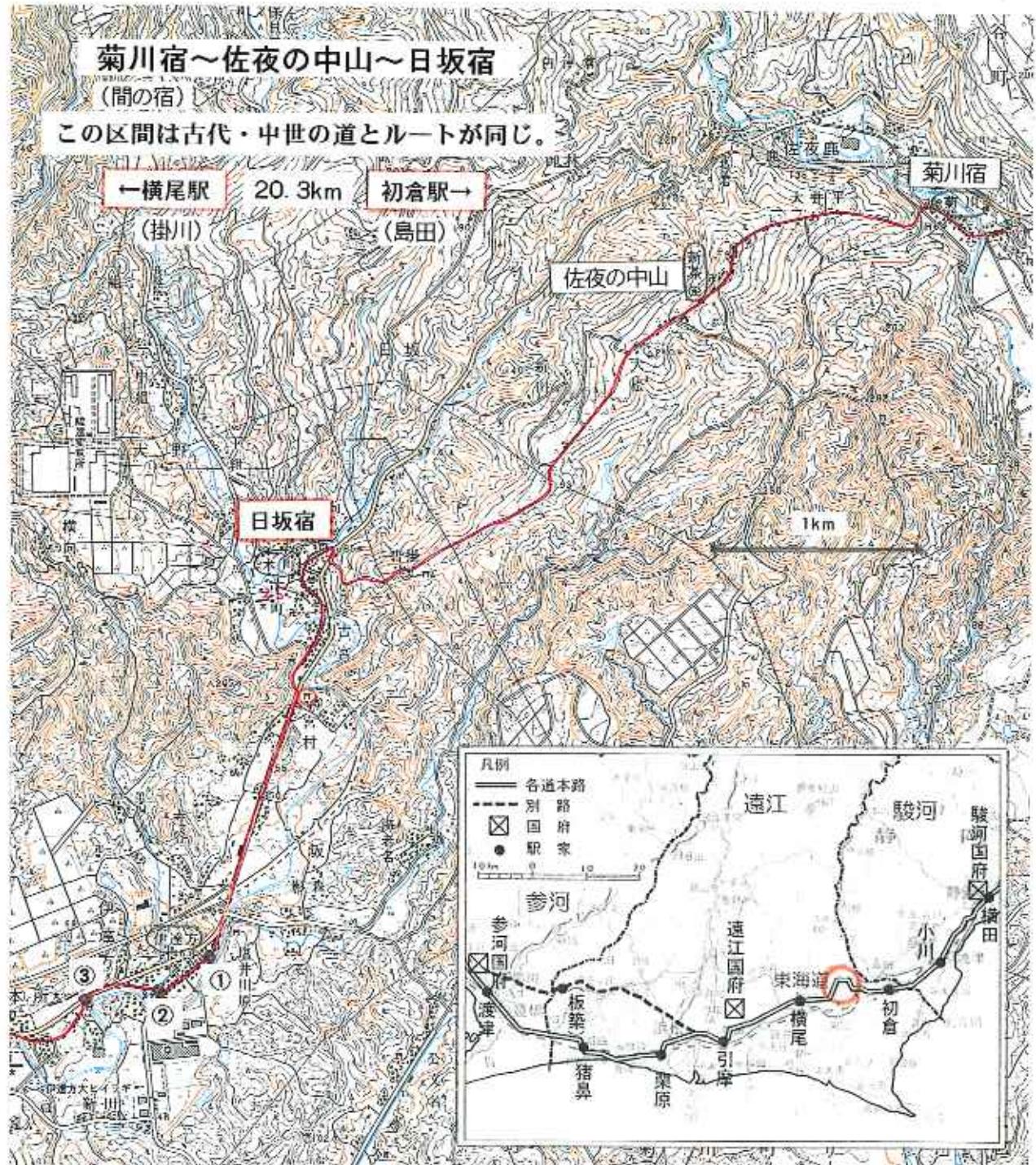
掛川市塩井川原の旧道。昔の海老名村。



掛川市成瀬の辺の旧道。



竜川橋の手前を左に入るのが旧道。くの字に曲がり、又川添いに向こう側の道に戻る。



## 26 ◇掛川宿◇

静岡県掛川市



本陣 2軒

脇本陣 0軒

町の中心地。2軒あった本陣の内の沢野家の向い側の町並み。2軒共明治初期にとりこわされ何も残っていない。  
掛川市仲町。



掛川城 今川氏から徳川へ移り山内一豊の代に天守閣が造られたが地震で倒壊し、平成5年140年ぶりに再建された。



宿の西の出口で木戸があった所。手前に川があり橋が架かっていた。掛川市十王町。



カギ型に曲がる城内への入口の最後の曲がり角。左の突当たりに城の木戸があった。



J R掛川駅



馬喰橋を渡り、U形になつてゐる旧道をもどる。ここに江戸から58里目(232km)の松の一里塚があった。

宿内人口

3443人

総家数

960軒

旅籠

30軒

大小中軒

3軒  
11軒  
16軒



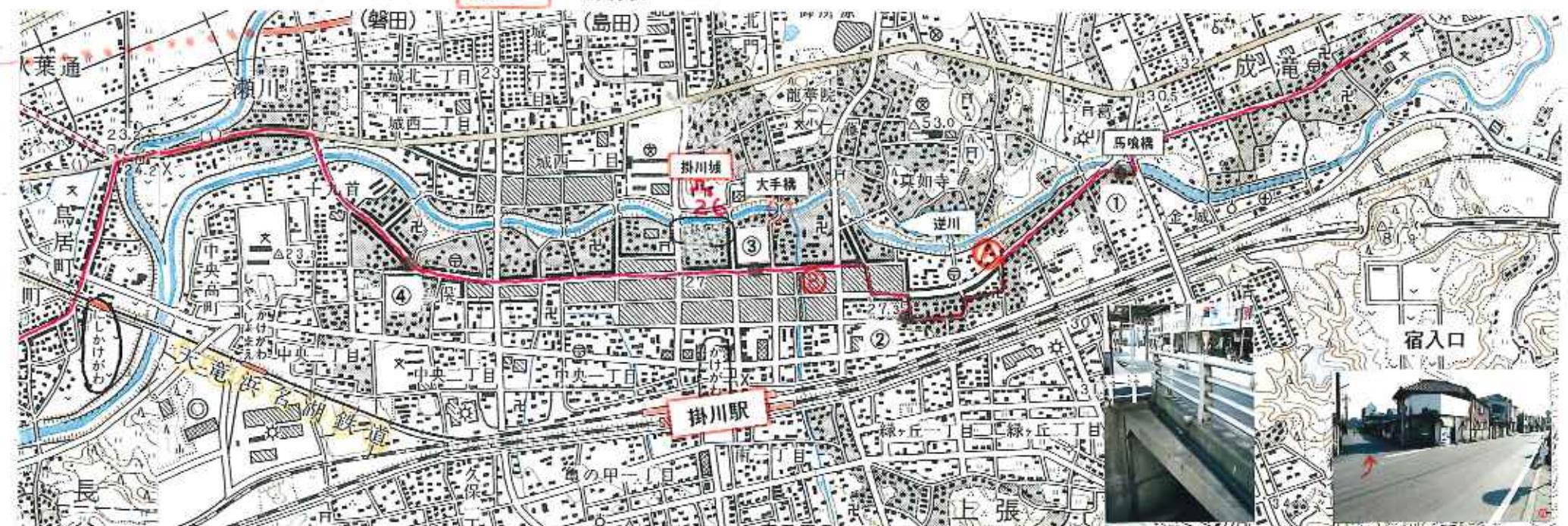
大手門 高さ 11.6m  
平成 7年復元



天守からのながめ



17.2km 引摩駅 ← 横尾駅 → 初倉駅 20.3km



③昔あった小橋を渡る。 ④左に曲がり宿に入る。



天竜浜名湖線のガードをくぐる。すぐ左側が西掛川駅。掛川市烏居町。



煙突の立つ古い酒店のある旧道をゆく。掛川市細田町。  
上曜だったが閉まっていた。昔の細田村。



掛川宿を出て逆川を渡る。



倉真川に架かる大地橋を渡り、左へ曲がる。  
秋葉街道への分岐点。ふり返って見る。



久津部の一里塚 江戸からちょうど60里目(240km)の一里塚で松が植えてあった。袋井市広岡。



袋井宿が近い花の咲く旧道。松並木が続く。



道標がいくつかあった。右は大正5年に設置されたもの。掛川市岡津町。



原野谷川の同心橋を渡り、久津部町に入る。この名産は「花むしろ」だったとある。昔の久津部村。